

第5回世界農業遺勉強会 米子会議概要

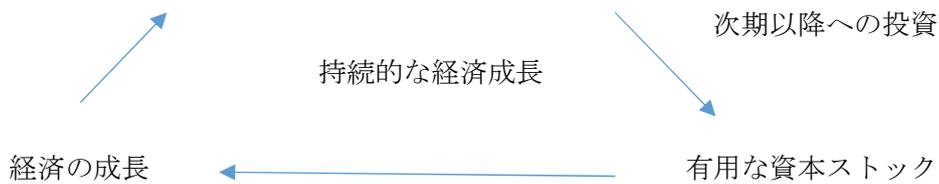
- ◆日時 平成28年3月13日(日)9時~12時
- ◆会場 米子コンベンションセンター
- ◆参加者 山下欣浩、大西浩明、山方貴順、中澤静男
- ◆内容

1. 「農業と人間 第4章」(大西浩明)

第4章 農業の成長と技術進歩

経済成長の源泉は、資本ストックの蓄積と技術の進歩

その期に得られた国民所得の余剰



農業における資本ストックとは

- ①農地、農業用の施設や機械 農地の開墾や農業水利の開発は投資にあたる

農業は土地利用型産業

農業技術のチャレンジの2つの側面

- ・土地あたりどれほど多くの農産物をつくり出すことができるか
- ・限られた農業従事者のもとで、どれほどの広さの土地を耕すことができるか

高い労働生産性 = 土地生産性 + 土地装備率

BC技術	品種や竿倍法といった技術	「生物化学的技術」	土地生産性
M技術	土地装備率 農業機械	「工学的な技術」	土地装備率

BC技術からM技術への方向転換

増産型の新技術の開発・農地の開発

↓ 食料消費の中身の変化

食味の良い品種とこれを支える栽培技術の開発

省力化の要請 労働節約型の技術体系への期待 M技術

日本の田植え機はBC技術の進歩に支えられたM技術の進歩の象徴

BC技術の進歩があつてこそM技術が生きてくる

経済環境と技術選択

機械や設備を比較的安価に入手しやすくなった

増産型から省力型へと土地改良が進む B C技術の方向性が変化している

農業の技術進歩は経済によって作り出される

経済によって研究された新しい技術

偶然見つかった新しい技術

発明を受け入れる経済基盤がある場合に歓迎される

そうでない場合は無視される

品種改良・B C技術 公共財

F 1 ・M技術 私的財

B C技術は規模にとって中立

M技術は規模が拡大するにつれてコストは低下する

持続可能な農業をB C技術とM技術で説明する。

江戸時代 人手があまっていた B C技術こそが投資

現代 農業従事者の不足 人手不足を解消するM技術も必要

◆各世界農業遺産をB C技術とM技術の観点で分析し、比較することで共通点や特色が明らかにできる
循環 海の魚 干鰯 肥料に 農業生産にプラス 循環をつなぐもの水
济州島 紀の川 瀬戸内海の島 (かつては綿栽培されていたという記事があった)

◆世界農業遺産を見る視点

E S Dの視点

①受け継いで来た人々の努力・思いに目を向ける

責任性

②循環をつなぐ水に視点をあてる

相互性

③B C技術とM技術

連携性と経済性

B C技術 連携性

M技術 経済性

経済と環境と社会のバランスの重要性を説明する観点になりうる

◆次年度計画

持続可能な農業システムとしての世界農業遺産の理解

佐渡 大西と山方

国東 山下

能登

阿蘇 祐岡・

静岡 中澤・

和歌山 中澤

長良川・水質保全 中澤・山下

高千穂